

#### 第4回高校生世代「人権の詩」審査

総評

今年の応募作品から思い浮かんだ言葉は、「希望」「決意」「感謝」「友情」「正義感」などです。高校生世代らしい前向きな姿勢、親しい人たちへの信頼と愛情に満ちた作品がたくさんありました。その一方で、自分の行動や他人の言動を見つめる毅然とした視線から生まれた作品も見られました。人権の意識に根ざしたそれらの作品の中で、発想力や構成力に優れ、言葉の魅力に溢れた作品が入賞・入選となりました。

詩は言葉による自己表現です。借り物ではない自分の言葉を見つけることが大切です。日常の生活や人との関わりの中で、「詩のアンテナ」を研ぎ澄ますこと（観察すること）を心がけてほしいと思います。

選評（入賞作品）

○最優秀作品「変わる」

変わりたいのに変われない自分を歯がゆく見つめながらも、自分を信じる気持ち素直に表現されています。自分に対する応援歌となっていますが、同じ気持ちを抱く多くの人へ共感の輪が広がるでしょう。

○優秀賞作品「君の言葉」

言葉で伝えることの大切さを訴えていて、支え合う友情の素晴らしさが感じられます。「泣きんさい」と「頑張りすぎ」の挿入が効果的です。

○優秀賞作品「人の見る景色」

一人一人の感じ方や考えが違うことを理解し、認め合い・支え合うことの大切さに気付いてほしいという思いを、自分の言葉で表現しようとしています。

(審査委員・川辺 真)

佳作入選作品

- ・「心の叫び」
- ・「もし自分に」
- ・「言葉」
- ・「私の私」
- ・「人との距離」
- ・「あなた」
- ・「友達」